



ESDに関するユネスコ世界会議について



文部科学省国際統括官付



持続可能な開発のための教育(ESD) について

1. 「ESD(持続可能な開発のための教育)」とは？

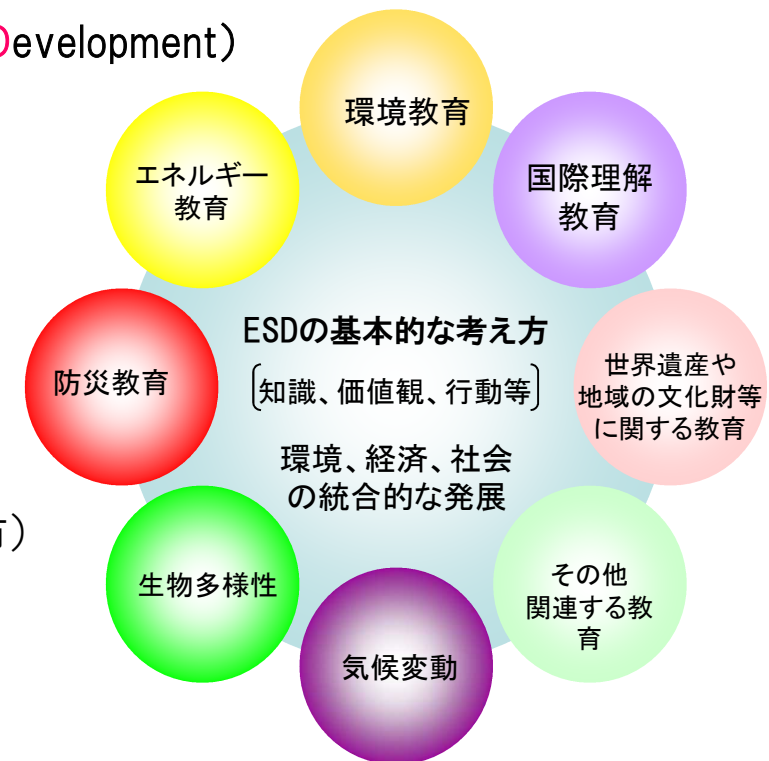
ESD=Education for Sustainable Developmentの略。

持続可能な社会の担い手を育むため、地球規模の課題を自分のこととして捉え、その解決に向けて自分で考え行動を起こす力を身に付けるための教育。

2. 「国連ESDの10年」(UNDESD)について

(United Nations Decade of Education for Sustainable Development)

- 2002年 ヨハネスブルクサミットで我が国が提案
- 2002年 国連決議(第57回総会)
 - ・ 2005～2014年の10年
 - ・ ユネスコを主導機関に指名
- 2005年 DESD国際実施計画をユネスコにて策定
- 2009年 ESD世界会議(ボン)
 - ・ ボン宣言の採択
- 2014年 持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議(愛知県・名古屋市/岡山市)
 - ・ あいち・なごや宣言の採択
 - ・ ユネスコ/日本ESD賞の創設



3. グローバル・アクション・プログラム(GAP)について

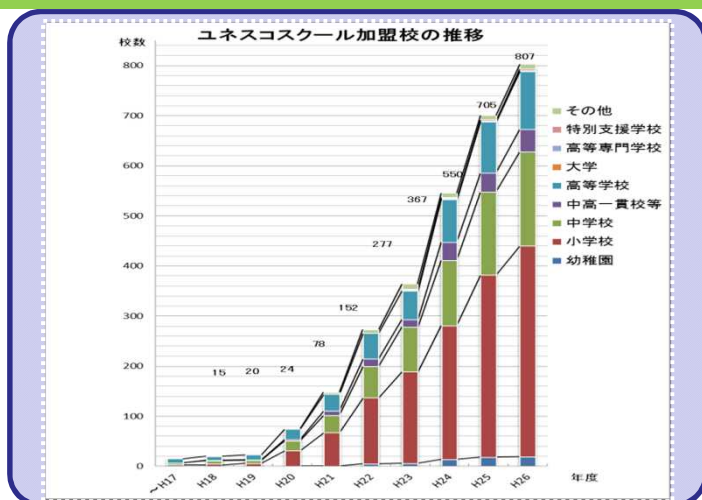
- 2013年 第37回ユネスコ総会にて採択
- 2014年 第69回国連総会にて採択
- 2015年～2019年 グローバル・アクション・プログラム(GAP)に基づいたESDの推進

ジャパンレポートについて

＜ジャパンレポートにおけるDESDの主な成果＞

○政府が策定する教育計画(教育振興基本計画)及びカリキュラムを編成する際の基準(学習指導要領)にESDの理念を盛り込んだこと

○2006年に20校であったユネスコスクール加盟数は、世界最多となる807校まで増加し、様々なESDの実践が現場レベルで取り組まれていること



ESDの現場レベルでの実践例

○ ESDに取り組む多くの学校で、年間計画やESDカレンダーに基づき、計画的にESDが展開。

○ 全国5か所において、大学や教育委員会を中心に、ユネスコスクールを構成メンバーに含むESD推進のためのコンソーシアムを、国による財政支援で開始。

※ユネスコスクールとは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校。

○地域の多様な主体からなる協議会等を通じた地域ぐるみの先駆的取組が広がっていること

岡山市や宮城県気仙沼市における先行事例は、日本国内でのモデルや、国際連合大学が国際的に展開しているRCE(持続可能な開発のための教育に関する地域の拠点)のモデルにもなった。



※これらの成果等については、「ジャパンレポート」として取りまとめ、公表しています。
ジャパンレポートの本文については、最後のページのURLをご参照ください。

「ESDに関するユネスコ世界会議」の開催概要

1. 参加国・閣僚者数等

1) 愛知・名古屋(11月10日(月)～12日(水))

○正式参加者: 150か国・地域 1,000名以上

○閣僚級: 76名

2) 岡山(11月4日(火)～8日(土))

○ステークホルダー会合参加者: 約2,000名

(Studentフォーラム、教員フォーラム、ユネスコスクール全国大会、ユース・コンファレンス等)

2. 世界会議における成果

1) 採択された各種宣言

①「あいち・なごや宣言」

②「ESD推進のためのユネスコスクール宣言」

③「ユース・ステートメント」

④「ユネスコスクール世界大会Student(高校生)フォーラム共同宣言」

⑤2014年以降のRCEとESDに関する岡山宣言

2) 「国連ESDの10年」の後継プログラムである「グローバル・アクション・プログラム」(GAP)開始の正式発表

3) 「ユネスコ／日本ESD賞」創設の正式発表

GAPの具体的な実施を促進するため、ESDへの若者の参加の支援、ESDへの地域コミュニティの参加の促進などGAPの5つの優先行動分野のうち、一つ以上の分野で活発に活動している個人又は団体を表彰する。(1件当たり5万米ドル。毎年3件を表彰。)

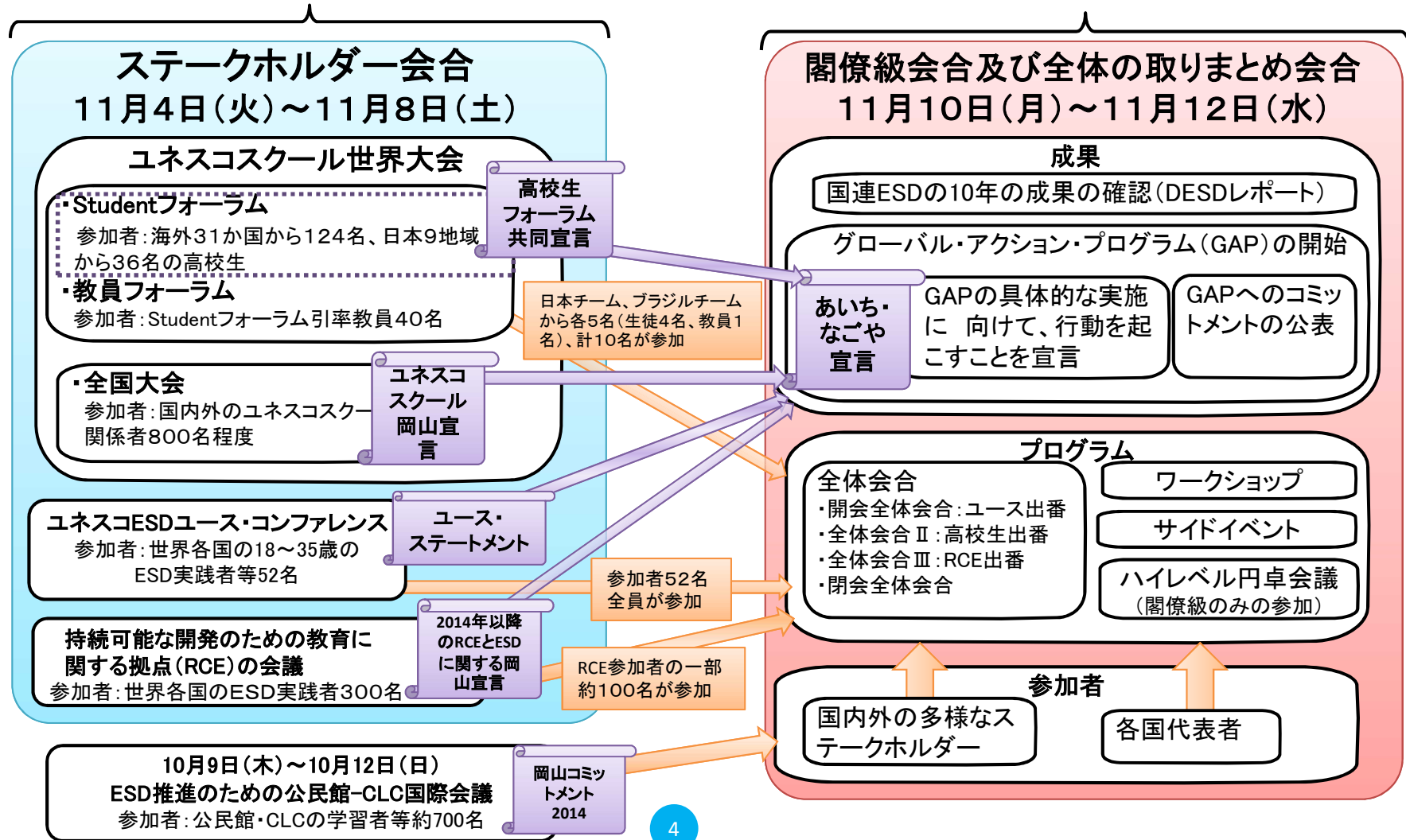


開会全体会合



ハイレベル円卓会議

持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議 UNESCO World Conference on Education for Sustainable Development (ESD)



①「あいち・なごや宣言」

1 これまでの評価

1. 国連ESDの10年に多くの実質的な優れた取組が出たことを祝す。
2. ユネスコ／日本ESD賞の創設を評価する。

2 今後に向けた呼びかけ

【全てのステークホルダーへ】

- ・批判的思考、分析的問題解決、不確実なことに直面した際の決断、国際的な課題がつながっていること等の理解等に必要な知識、スキル、態度等を発達させるESDの可能性を重視する。
- ・フォーマル、ノンフォーマル、インフォーマルな環境におけるGAP開始のモメンタムを構築、維持。
- ・GAPの五つの優先行動分野におけるモニタリング、評価の方法を強化。
- ・ユースをキーとなるステークホルダーとして巻き込む。

【ユネスコ加盟国政府へ】

- ・教育政策とカリキュラムのESDのゴール達成度を評価し、教育、訓練、職能開発へESDを導入。
- ・GAPの五つの優先行動分野に沿った政策を行動に移すため、実質的資源を配分、集結。
- ・ユネスコ世界会議の成果をポスト2015年アジェンダへ反映。

【ユネスコ事務局長へ】

- ・ESDのグローバルリーダーシップを提供。
- ・ユネスコスクール等のネットワークを活用。
- ・ESDの資金を含む適切な方策を保証することの重要性を喚起。

② ユネスコスクール世界大会「第6回ユネスコスクール全国大会」

【概要】

○海外32国からの参加者も得て、日本のユネスコスクール関係者約1,000名が参加し、全体会においては、ESD大賞の授賞式と受賞校による発表、国内外の交流実践発表等を行うとともに、分科会においては実践事例の発表、プレゼンテーションやテーマ別交流研修会を行った。

【成果】

○日本のユネスコスクールとして、今後、地域の人々等との協働、国内外のユネスコスクールとの交流、ユネスコスクールの全国ネットワークをつくること等を宣言するとともに、学校による更なるESDの推進に向け、ユネスコスクールからの提言をまとめた「ユネスコスクール岡山宣言」を策定した。

○日本のユネスコスクールの優れたESD活動の事例を収集・整理した優良活動事例集（日本語版・英語版）を配布した。



③「ユース・コンファレンス」

【概要】

○全世界から応募のあった約5,000名の中から選ばれた18歳から35歳までのESD実践者・研究者48か国50名(うち3名が日本人)が、各々がこれまで培ってきた経験や知識を共有し、2015年以降のESDの推進について議論を行った。

○会議に先立ち、9～10月にかけて参加者はオンラインディスカッションを実施した。



【成果】

○今後のESDの推進に向けて、ユースとしてやるべきこと、また、ユースの参加促進に向けて必要なことをまとめた宣言、「ユース・ステートメント」を策定した。

○「ESDに関するユネスコ世界会議」に50名全員が出席、さらに代表1名が全体会パネリストとして登壇した。



④ ユネスコスクール世界大会「高校生フォーラム」

【概要】

○日本を含む世界32ヶ国から40チーム(1チームは高校生4人、教員1人で構成)が参加し、これまでESDを学習してきた成果を背景にプレゼンテーションとディスカッションを行った。

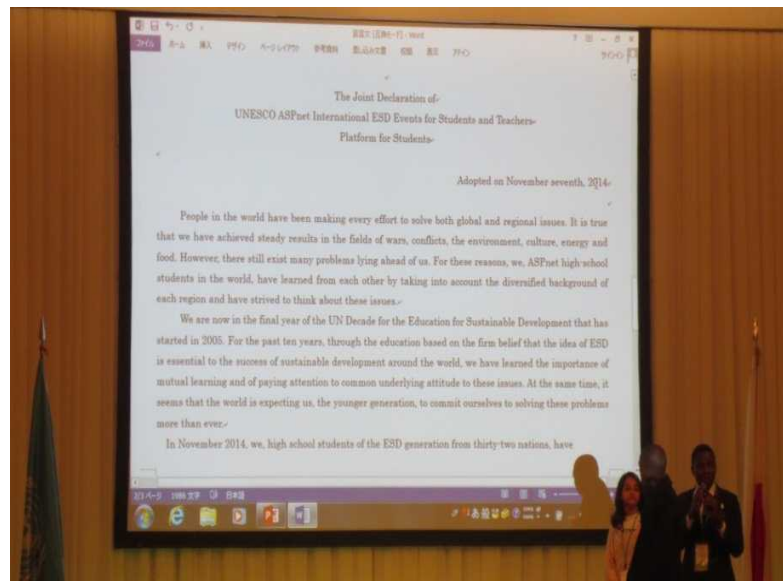
○岡山と大阪のユネスコスクールを中心とした高校生約600名が会議運営を行った。

【成果】

○高校生の立場からESDについて発信していくこと、地球に生きる一員としての自覚を持つこと、個人の明確な目標を明らかにすること等をまとめた「共同宣言」を策定した。

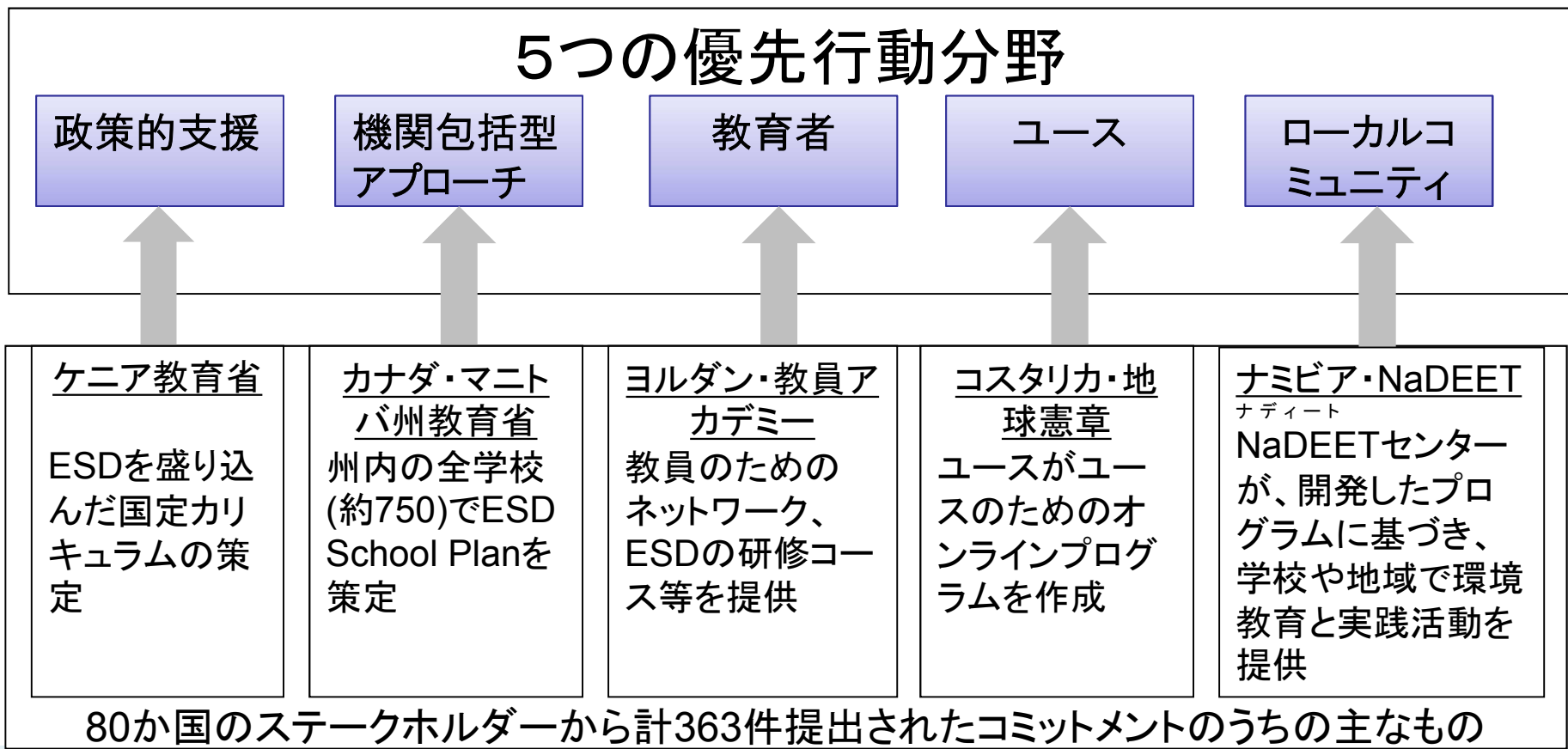
○「ESDに関するユネスコ世界会議」に岡山チーム(日本)とブラジルチームが出席し、ブラジルチームから代表1名が全体会合にパネリストとして登壇した。

○ワークショップで岡山チームが高校生フォーラムの成果について発表した。



⑤グローバル・アクション・プログラム(GAP)

- ・「国連ESDの10年」の後継プログラムとして位置付ける
- ・下記5点を優先分野として2015年以降のESDの取組を推進する
- ・各ステークホルダーからのコミットメントが収集される



⑥グローバル・アクション・プログラム(GAP)ロードマップ

GAPの実行、モニタリング戦略、戦略的焦点化、ステークホルダーのコミットメントを可能とするためのプログラム目標、方針、優先行動分野についての説明書き

5つの優先行動分野

